

## 「第3回四万十・流域圏学会」開催

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、5月31日(土)と6月1日(日)に行われました「四万十・流域圏学会」の報告をします。

1日目は、高知大学で16件の研究発表。その中で、県立四万十高校の自然環境部が「四万十川の泡沫現象について」発表しました。四万十川では、川面に多数の“泡”を目にすることがあります。この“泡”に注目し、生活排水に含まれる洗剤(界面活性剤)が原因ではないかと仮説を立て、源流から大正町まで約100kmの測定区間(10地点)で水質調査などを実施。その結果、“泡”の原因は「藻類の出す多糖質の可能性ある」と結論付けました。

この研究は「第46回日本学生科学賞」を受賞。また、8月に北海道の標茶高校で開催される「第4回高校生自然環境サミット」でも発表予定とのことです。

○研究の詳細<http://www.kochinet.ed.jp/shimanto-h/>

2日目は、場所を南国市十市の石土池に移し、小学生を対象に「イシガメを見にいこう!」というエクスカッションが行われました。台風一過の風が心地良く吹く絶好の天候となり、約60人の参加者が集合。石川妙子さん(水生生物研究家)のニホンイシガメの説明から始まり、産卵場の見学の際には、実際に産卵しているアカミミガメを発見することができ、一同歓声をあげました(静かに)。その後、水質調査やタモ網を使って水際の生き物探しを実施。小学生は、それぞれが目を輝かせながら、石土池を体感。

また、この日は四万十大使の宮崎美子さんも参加し、盛んにカメラのシャッターを押すなど、高知の自然を満喫していました。

このように学会は、四万十川をモデルに流域圏の保全・振興策を学民産官で研究、実践する場であるとともに、高校生や小学生の自然保全への関心を高めることを目指しています。

○学会ホームページ<http://www.lab.kochi-tech.ac.jp/shimanto/>



▲四万十高校・自然環境部の発表者



▲四万十川でみられる泡沫現象



▲アカミミガメの産卵



▲四万十大使の宮崎美子さん

## Topics

### 「釣りバカ日誌14」高知ロケ・四万十川にハマちゃん!

松竹の人気映画「釣りバカ日誌14」の高知ロケが、5月9日にスタート。高知城前でよさこい祭りのシーンを撮影した後、大月町の柏島、中村市の四万十川、土佐清水市での釣りシーンなど、精力的に撮影を重ね、22日に高知ロケをほぼ終了。四万十川のシーンでは中村市最上流に架かる「勝間の沈下橋」で撮影が行われ、地元住民から熱烈な歓迎を受けました。全国で9月公開予定。